

## 「美術を通じた国際交流①」

- 1 日時 令和4年12月1日(木) 10:40~11:30 美術室
- 2 講師 上村(山下) 克彦氏(現代美術作家)
- 3 参加者 生徒18名(3年次基礎造形選択者)
- 4 内容

- ・講演 ドイツにおける芸術活動について

ドイツにおいて、現代美術作家の堀尾貞治氏のパフォーマンスに参加した時、堀尾氏が作品制作のために現地で集めた布の端切れの柄があまりにも美しかったので、その布の端切れが入った段ボール箱を持ち、段ボール内の布を道にまくパフォーマンスを行った。

その際、堀尾氏は段ボールの重さに体力が消耗されていくのを見て、すぐさま上村氏は堀尾氏の段ボールを持ち、堀尾氏は続けて布をまくパフォーマンスを最後まで行った。

段ボール箱はとても重くて大変な作業であったが、パフォーマンス終了後、鑑賞者からとてもよかったという感想をいただけてとても充実し、嬉しかった記憶があると話された。

- ・実技指導

数枚重ねた半紙に、墨で自分の名前を書き、墨で書いた名前の文字が乾いてから重ねた半紙をゆっくりとめくっていきました。テーマは「記憶」で、墨で自分の名前の書いた半紙を1枚1枚めくっていくことで、書いた名前がだんだんと消えていき、名前の記憶を1枚1枚の半紙に表現しました。



講演を聞いているところ



出来上がった作品を披露しているところ



- 5 感想

- ・ドイツでの活動はとても興味を持って聞くことができました。とっさに判断して参加するのはすごいことだなと思いました。
- ・半紙を1枚1枚はがしていく感触がとても心地よかったです。

## 「美術を通じた国際交流②」

- 1 日時 令和4年12月20日(火) 14:30~16:30 美術室
- 2 講師 永津 照見 氏(画家)
- 3 参加者 生徒21名(1年次、2年次、3年次)
- 4 内容

- ・講演 ベルギーやフランスにおける留学体験について  
スライドを見ながらベルギーで留学していた時の制作の様子のお話を聞きました。壁に作品を掛けながら、複数の作品を制作し、そのまま作品の講評を受けておられたそうです。  
フランスでの生活においては、いろいろな作品や建物を鑑賞された話を聞きました。



### ・実技指導

鉛筆(6B)によるクロッキー

#### ① 石膏像「アリアス」の制作

石膏像「アリアス」のクロッキーを制作しました。まずは、永津先生が制作手順の実演をされ、その制作風景を鑑賞した後、石膏像を囲んで20分間クロッキーをしました。制作後は作品の鑑賞会及び講評会をしました。



#### ② 人物の制作

モデルを1人決めて、人物クロッキーをしました。今回も永津先生が制作手順を実演されてからモデルを囲んで20分間クロッキーをしました。制作後は今回も作品の鑑賞会及び講評会をしました。

### 5 感想

- ① 石膏像の形は複雑で難しかったです、動かないのでゆっくりと観察して描くことが出来ました。
- ② 人物の体の比率を考えて描きました。なかなかうまく表現できませんでしたが、先生のアドバイスを受けて、鉛筆を思い切って動かして描くことができました。

## 「美術を通じた国際交流③」

- 1 日時 令和5年1月30日（月） 10:40～11:30 美術室
- 2 講師 上村（山下） 克彦 氏（現代美術作家）
- 3 参加者 生徒12名（2年次）
- 4 内容
  - ・講演 韓国における芸術活動について（作品制作、展示等）

### ・実技指導

テーマ「なくなってほしいものを文字にする。」

数枚重ねたちり紙に、なくなってほしいものの文字を墨で書き、墨で書いた文字が乾いてから重ねたちり紙をゆっくりとめくっていききました。

墨でなくなってほしいものの文字を書いたちり紙を1枚1枚めくっていくことで、書いてなくなってほしいものがちり紙をめくるたびにだんだんと消えていき、最後には文字が読めなくなるという作品になりました。

ちり紙をめくる感覚とだんだんと文字が消えていく様子が感覚的、視覚的に感じることでできるものとなりました。



### 5 感想

なくなってほしい言葉として「欲」や「お金」を書きましたが、書いたちり紙をめくっていくたびに、「欲」や「お金」の言葉が消えていき、最後には墨の点しか残らなかったのを見て不思議と晴れ晴れした気持ちになったのが不思議でした。

## 「美術を通じた国際交流④」

1 日 時 令和5年1月31日(火) 15:15～16:45 美術室

2 講 師 上村(山下) 克彦 氏(現代美術作家)

3 参加者 生徒21名(1年次、2年次)

4 内 容

・講演 ドイツにおける芸術活動について(作品制作、展示等)

・実技指導

- ① 「空」から連想する文字(今回書かれた文字:雲、晴れ、青 等)を墨で束ねたちり紙に書き、墨が乾いてからちり紙を1枚1枚めくっていきました。



- ② 石版画の制作

石版画は通常平らな石の表面に絵を描いて紙に転写する版画ですが、今回は自然石(上村先生が明南に来るまでの道すがら拾ってきた物)に墨をつけ、その墨のついた石に紙を巻いて転写するという、立体の版で平面に版画を摺るという作品を制作しました。

巻いた紙を石から取り外すと思わぬ模様が表れ、普段とは違った抽象版画が仕上がりました。



5 感 想

- ① ちり紙を1枚1枚めくっていく時の感触がとてもよかった。  
② 包んだ石の紙を開くと、とてもおもしろい模様ができていたので楽しく作業ができた。